

憲 法

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙は1枚だけ配付します。
- III 解答にあたっては、黒のボールペン・黒インクのペンのいずれかを使用してください（ただし、インクがプラスチック消しゴムで消せないものに限りです）。それ以外で解答用紙に記入した場合は、無効とします。
- IV 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直してください。修正液・修正テープを使用してはいけません。
- V 設問が複数の場合は、解答用紙に設問番号を明記したうえで、解答してください。設問番号の記入がない場合は、無効とします。
- VI 試験時間は80分です。
- VII 問題は1ページにあります。

憲 法

〔問題〕

次の事案を読み以下の問に答えなさい。

〔事案〕

〇 県立高等学校の教諭であった X は、「国歌」とされている「君が代」は天皇を国の中心とする思想を表したものの見方もあり、国民の間にも多様な受け止めがあるから、それを学校教育の場で一方的に斉唱するよう強制することは許されないとする強い教育上の信念を有していた。

X は、2017 年度の入学式と卒業式における「国歌斉唱」にあたって、校長の職務命令に反して、起立せず斉唱もしなかったため、県教育委員会より 2 度、戒告処分を受けた。X は、2018 年度の入学式においても「国歌斉唱」にあたって起立・斉唱をしなかったため、県教育委員会は、給与を 3 ヶ月にわたって 10 分の 1 減ずる減給処分（「本件減給処分」）とした。

X は、本件減給処分が憲法 19 条に違反するとしてその取消しを求めて裁判所に提訴した。

問 1 憲法 19 条は、「思想及び良心の自由は、これを侵してはならない」と定める。

そこにいう「侵してはならない」とはどのような意味かを判例の立場を踏まえて説明しなさい。

問 2 あなたが X の代理人であるとして、X の取消し請求にとって最も有効と思われる憲法上の主張を論じなさい。